

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
(2) 記号
d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D・・・部材の成 R・・・直径
@・・・間隔 r・・・半径 Q・・・中心線 l o・・・部材間の内法距離 h o・・・部材間の内法高さ
S T・・・あばら筋 H O O P・・・帯筋 S・H O O P・・・補助帯筋 ϕ・・・直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げ形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。 ※片持スラブ上端筋の先端
図				
鉄筋の余長	4 d 以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内寸法Rは、SD295、SD345のD16以下は3 d 以上、D19以上は4 d 以上 SD390は5 d 以上				

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内寸法 (R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295 SD345, SD390	16 ϕ 以下 D16 19 ϕ 以上 D19	3 d 以上
	上記以外の鉄筋	SD295 SD345, SD390	16 ϕ 以下 D16 19 ϕ ~ 25 ϕ D19 ~ D25 28 ϕ ~ 32 ϕ D28 ~ D38	4 d 以上 6 d 以上 8 d 以上

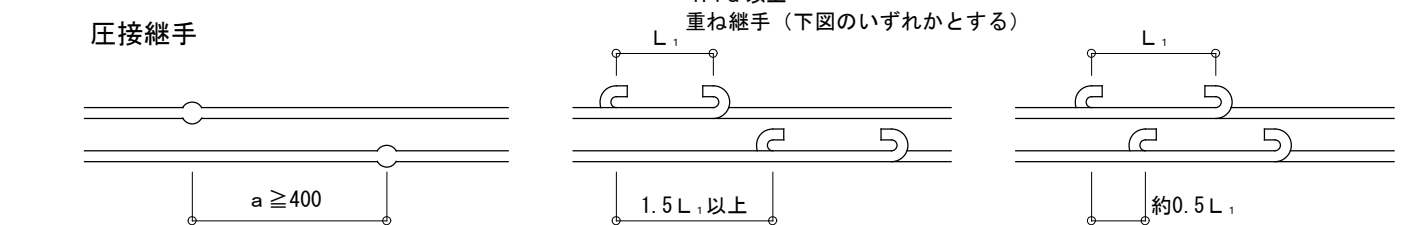
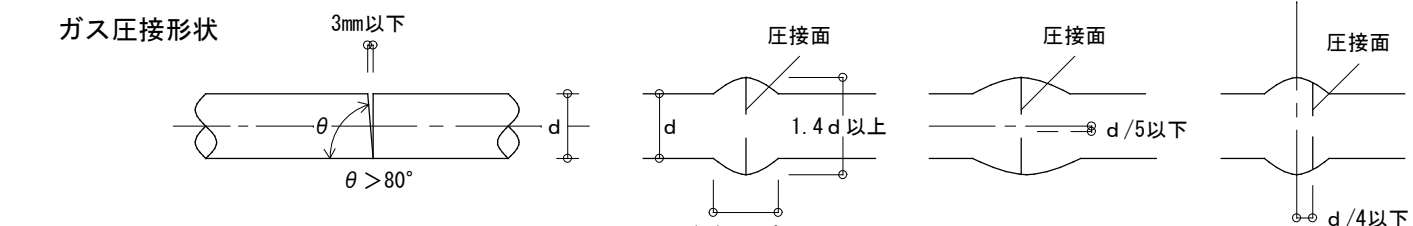
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L ₁)
		一般(L ₂)	下 端 筋(L ₃)		
			小 梁	スラブ	
S D 2 9 5	27～36	30dまたは20d フック付き	25dまたは15d フック付き	10dかつ150mm 以上	35dまたは25d フック付き
	21, 24	35dまたは25d フック付き			40dまたは30d フック付き
S D 3 4 5	18以下	40dまたは30d フック付き			45dまたは35d フック付き
	27～36	35dまたは25d フック付き			40dまたは30d フック付き
S D 3 9 0	21, 24	40dまたは30d フック付き			45dまたは35d フック付き

【注】許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は 40d とする

継 手

- 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



(4) かぶり厚さ (単位: mm)

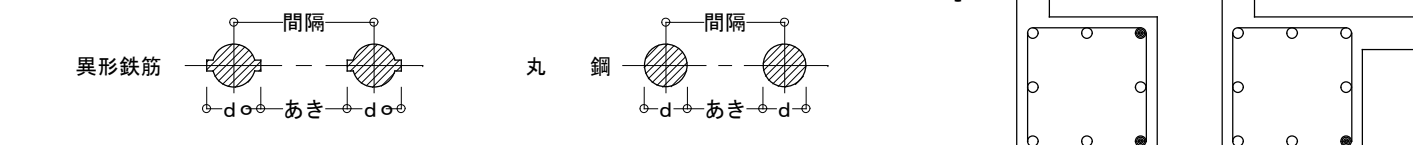
ひびわれ誘発目部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部 位	設計かぶり厚さ (mm)		最小かぶり厚さ (mm)	
	屋 内	屋 外	屋 内	屋 外
土に接しない部分	屋根スラブ	屋 内	30	20
	床スラブ	屋 外	40 ⁽¹⁾	30 (20)
土に接する部分	柱	屋 内	40	30
	耐力壁	屋 外	50 ⁽²⁾	40 ⁽¹⁾ (30)
土に接する部分	擁 壁		50 ⁽³⁾	40
	柱・はり・床スラブ・耐力壁		50	40 ⁽⁴⁾
基 礎	基礎		70	60 ⁽⁴⁾
	擁 壁			

- (注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
() 内寸法は耐久性上有効な仕上げがある場合を示す。
ただし、10mm減らすことの出来る部位は外壁のみとする。

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



(6) 鉄筋のフック

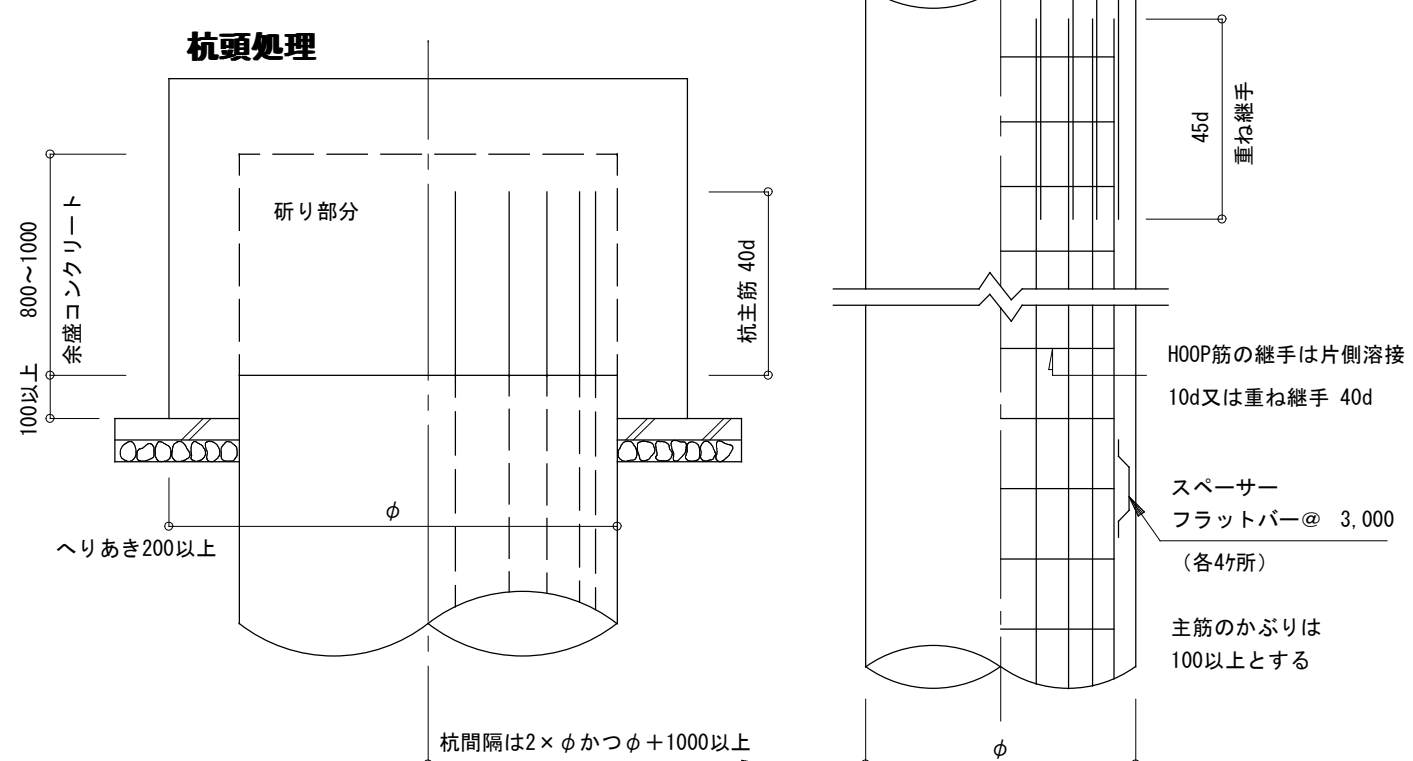
- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁 (基礎梁は除く) の出すみ部分の鉄筋 (右図参照)
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PRC杭、又はPHC杭全てに補強を行う

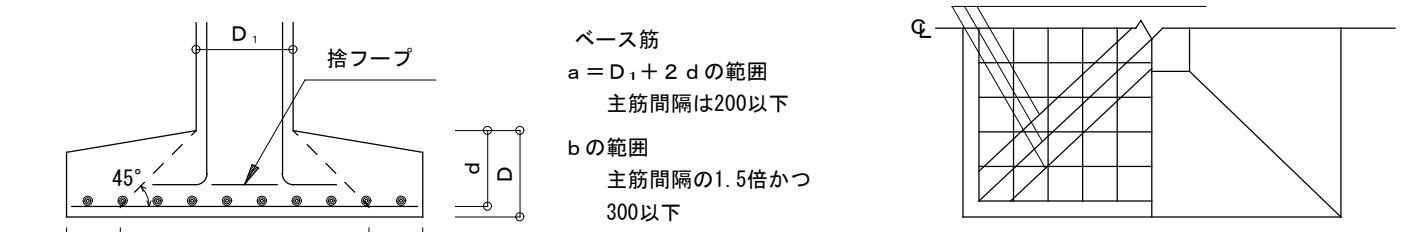
所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合	
杭 径	300 ϕ・350 ϕ	400 ϕ	450 ϕ 500 ϕ 600 ϕ
補 強 筋	6-D13	8-D13	10-D13 8-D16 10-D16
H O O P			D10-@150

(2) 現場打ちコンクリート杭

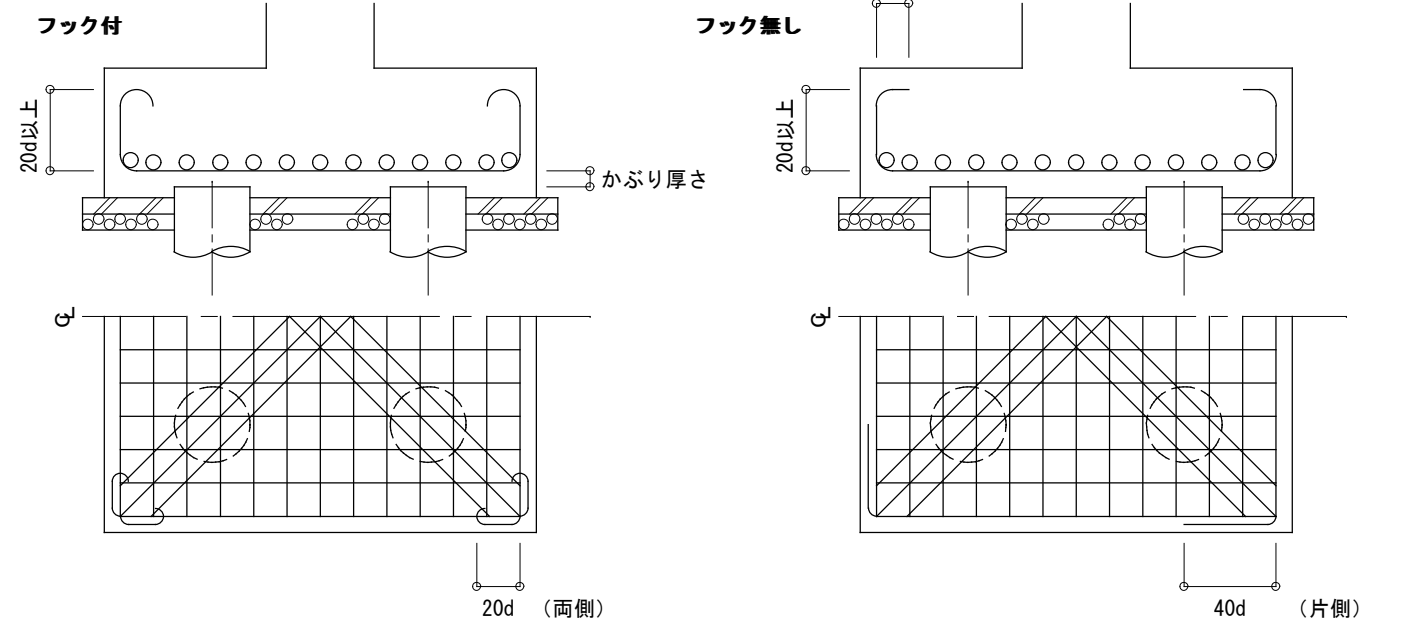


4. 基 礎

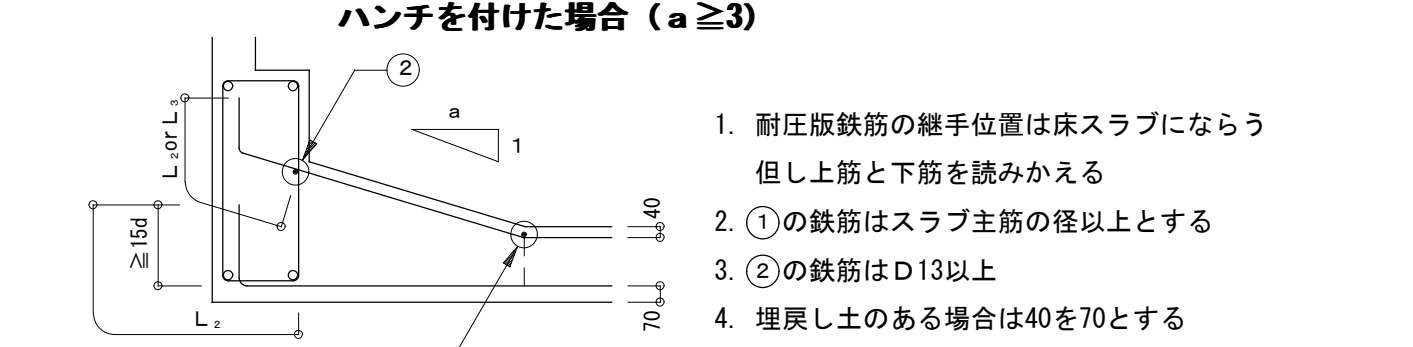
(1) 直接基礎



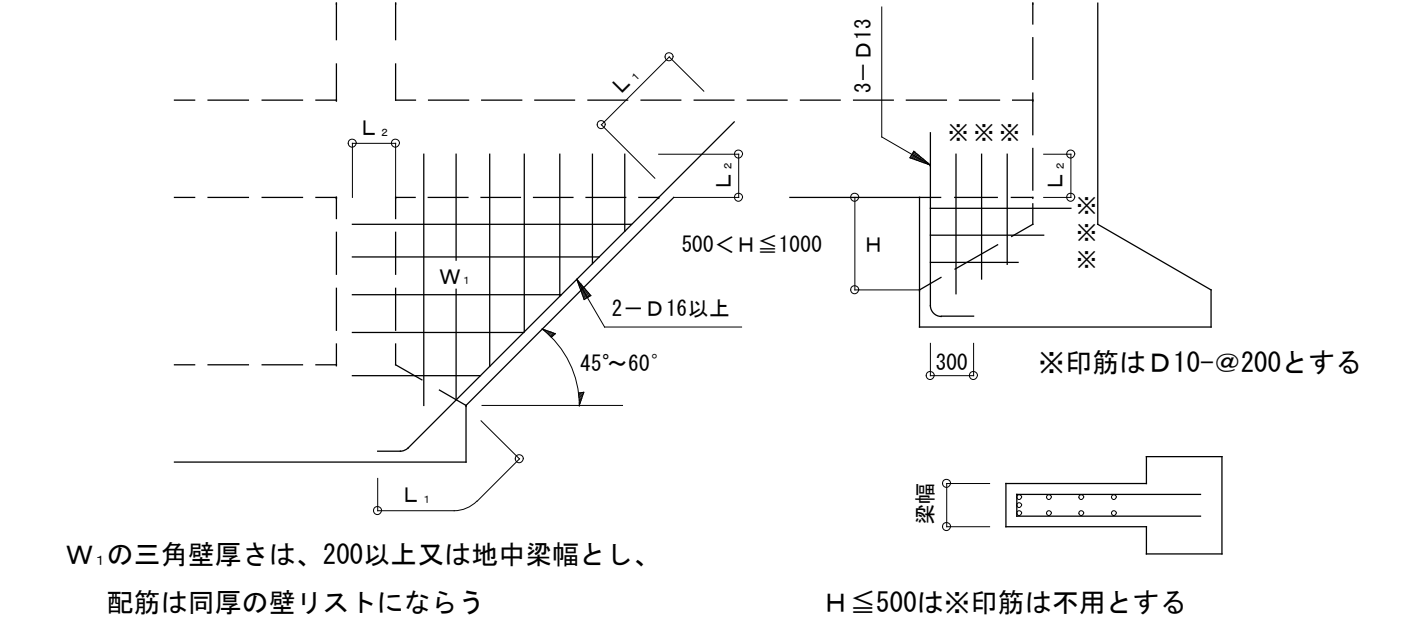
(2) 杭 基 礎



(3) ベタ基礎

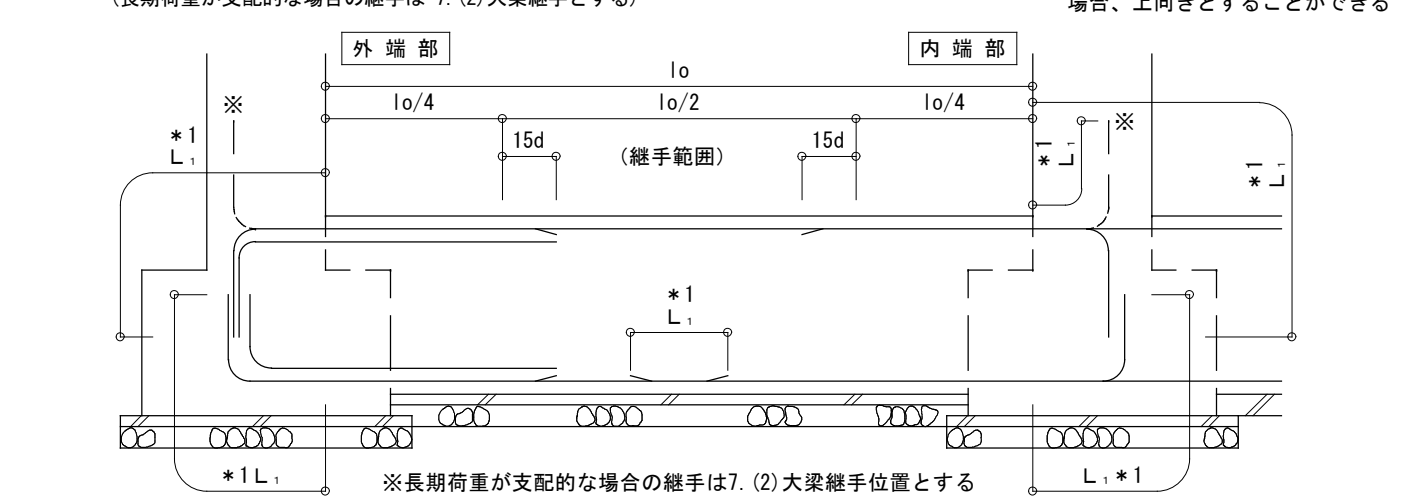


(4) 基礎接合部の補強

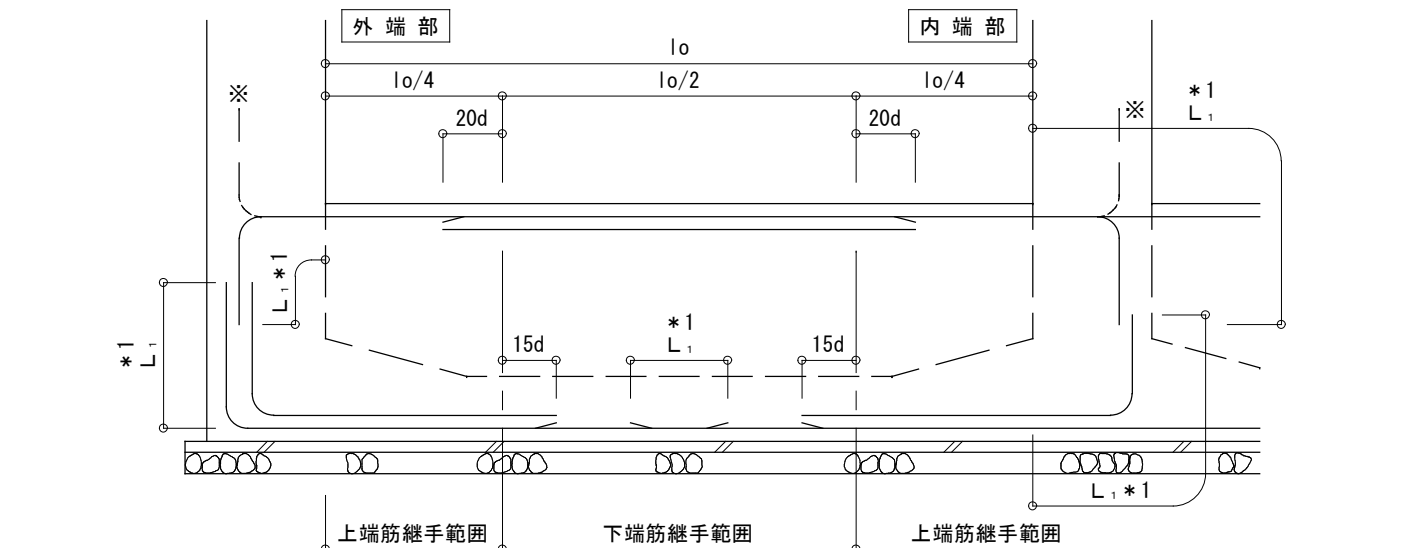


5. 地中梁

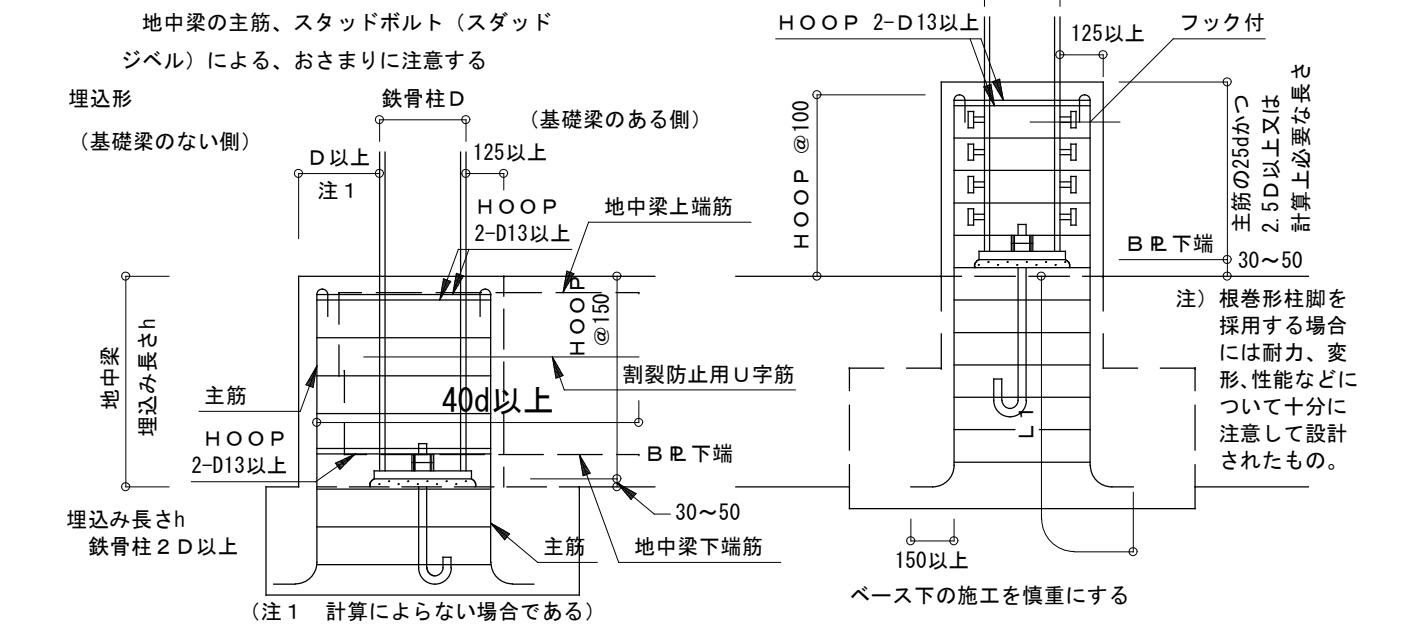
(1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



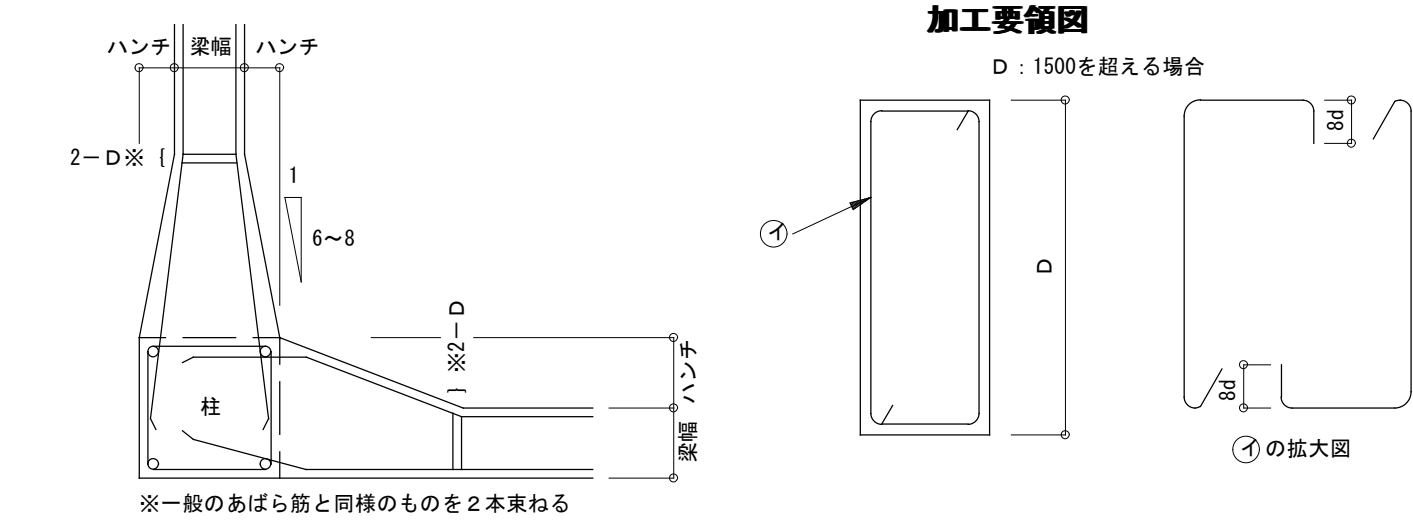
(2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



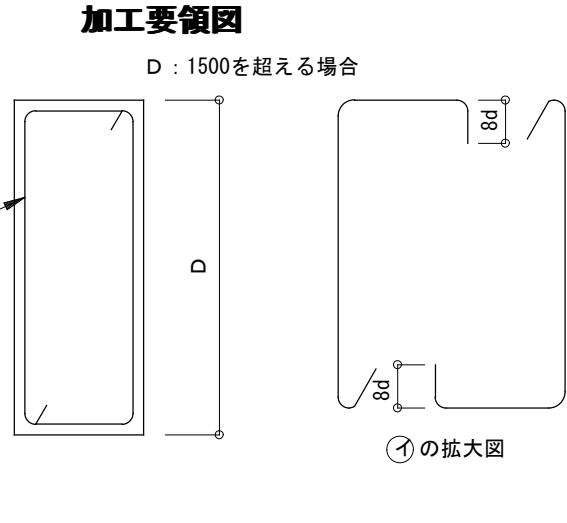
(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋



(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

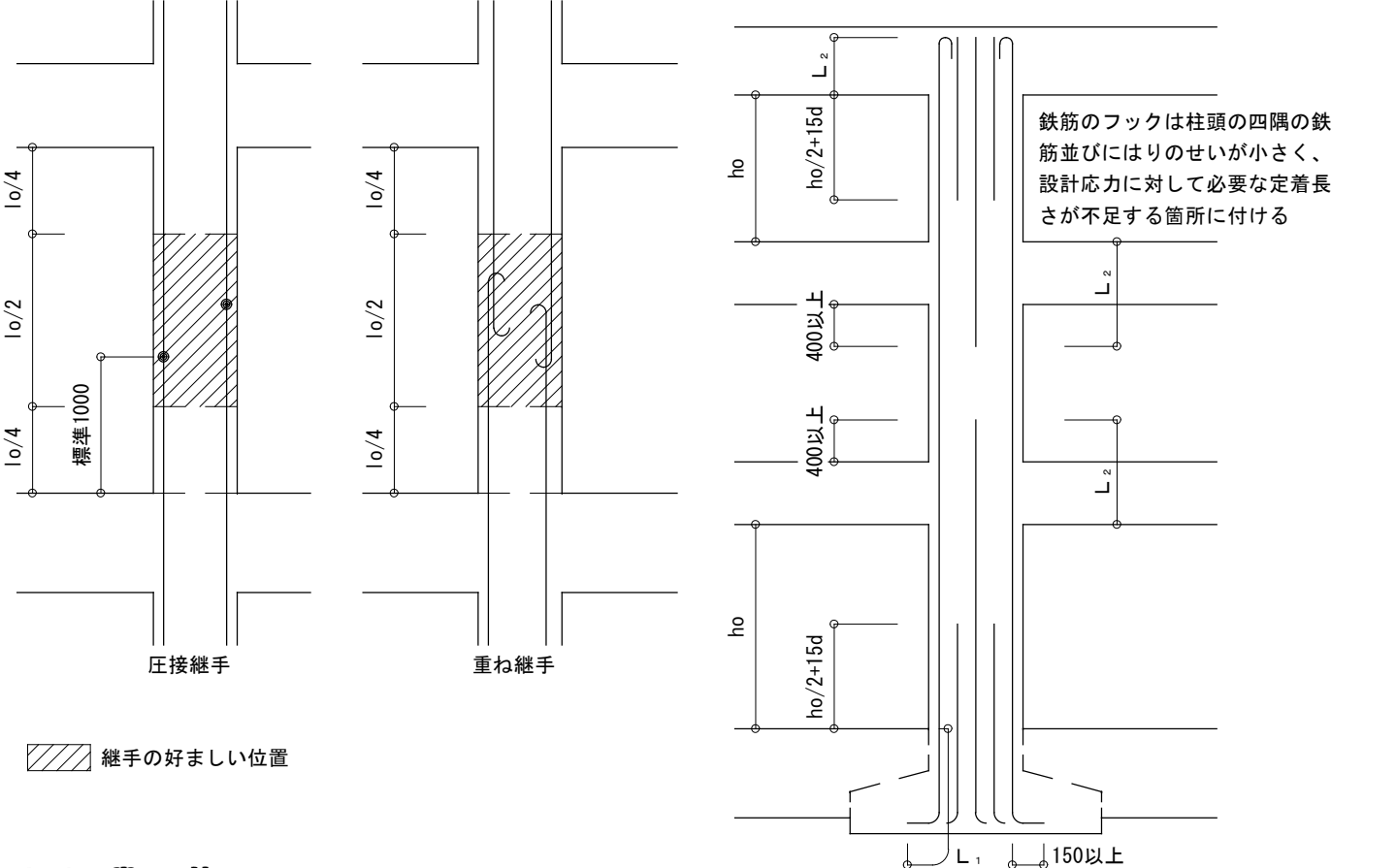


(5) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

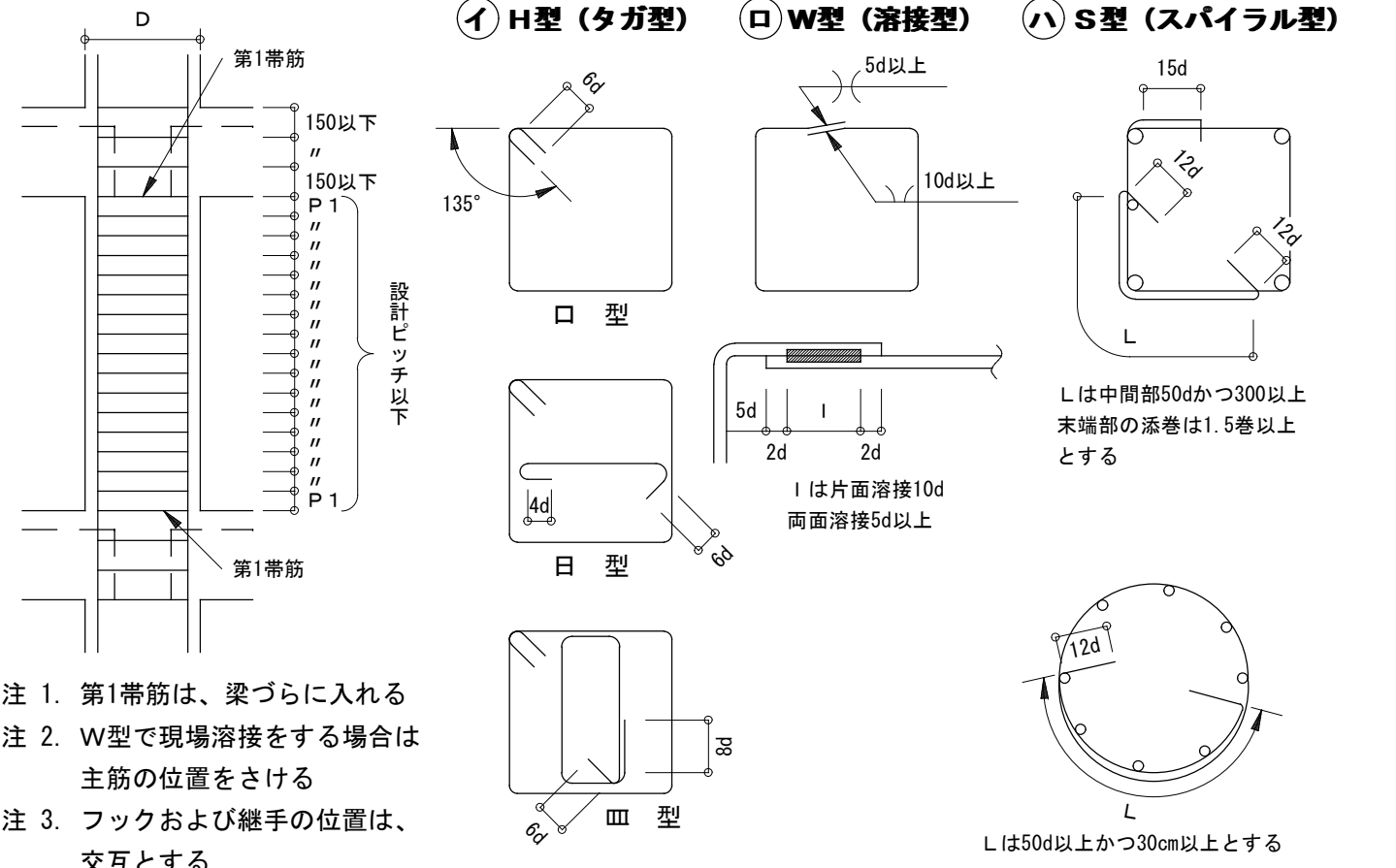


6. 柱

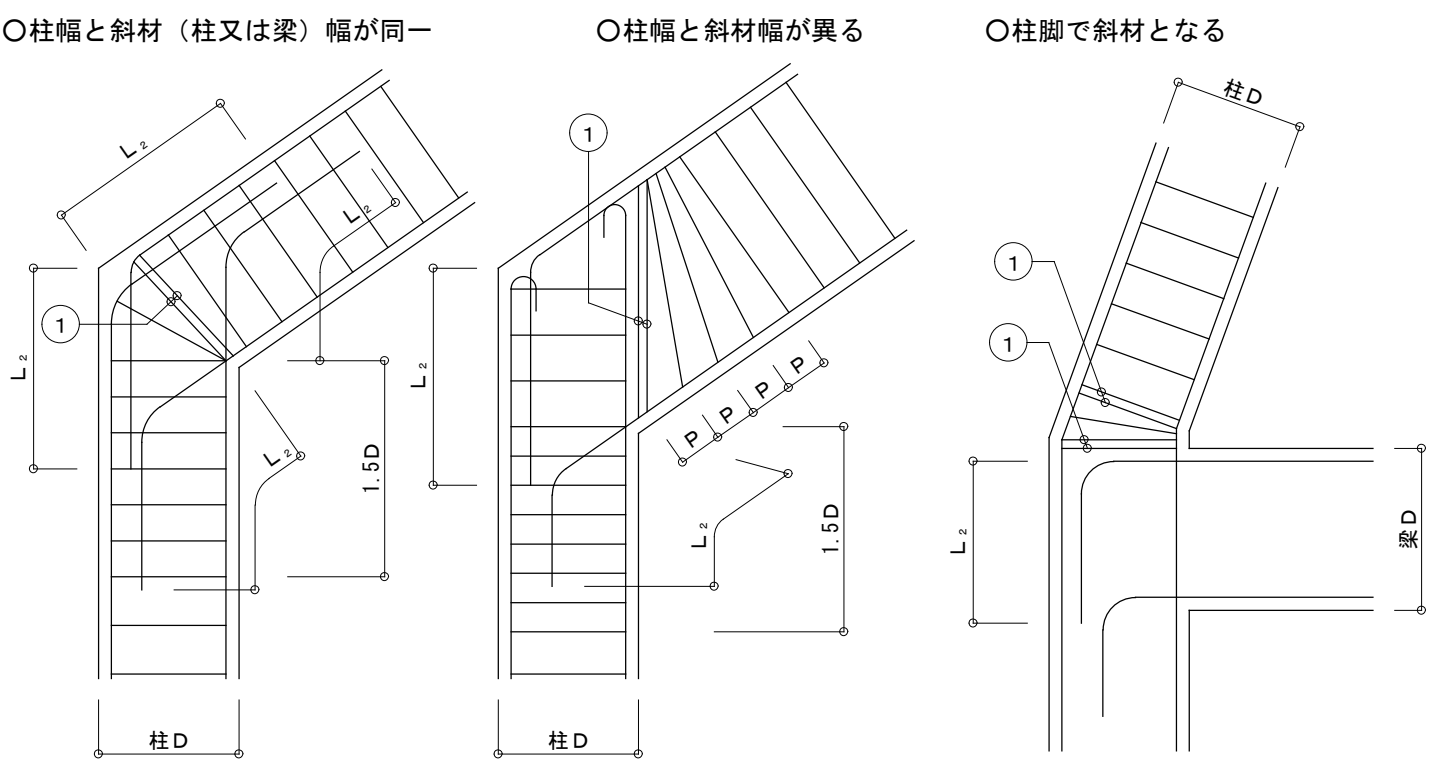
(1) 柱主筋の継手



(2) 柱主筋の定着



(3) 帯 筋



- 注 1. 第1帯筋は、梁づらに入れる
注 2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注 3. フックおよび継手の位置は、交互とする

(4) 斜め柱・斜め梁

